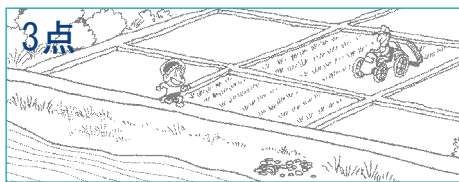




1 川のまわり

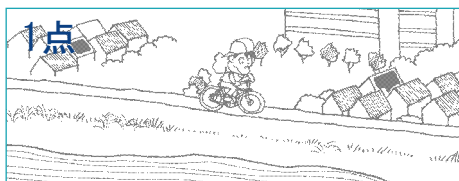
まずは川のまわりを見渡してみましょう。
自然と人工物の割合に注目してみましょう。



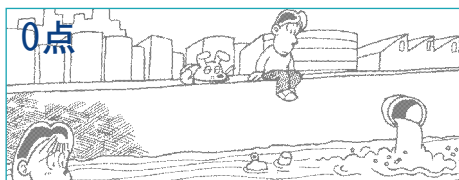
川のまわりは林・草原・
ヨシ原・田畑などで、
家などは少ない。



田畑と家がまざって
いる。



川のすぐ近くまで
家がある。



家や工場が
密集している。

3 流れ

こんどは水の流れかたを見てみましょう。
どれくらい人間がコントロールしていますか？
速い所と遅い所がありますか？



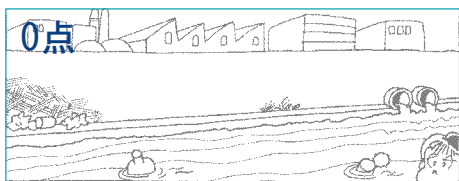
川原の中を蛇行していて、
中洲や川原に池がある。
上流や中流では、瀬や淵
(滝と滝つぼなど)もあり、
流れが分流している。



中洲や池は少ないが、流
れは蛇行している。上・
中流の場合は、瀬や淵は
あるが
分流はない。



ほとんどまっすぐ。
砂や石がたまったところ、
その上に草のはえたと
ころはある。



砂や石のたまるところ
もなく、ずっと同じよう
に流れている。

2 土手と川の間

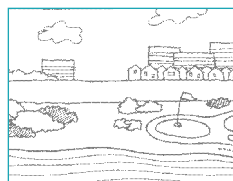
つぎは土手と流れの間です。
植物と人間の土地利用に注目してみましょう。



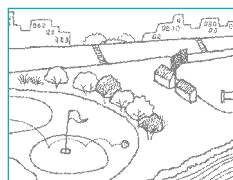
3点 流れのそばや河川敷には、草はらと林が
ある。人工物はあまり見られない。下流
ではヨシ原が広がる。溪流・峡谷では、岩
や土の崖がせまっている。



2点 背丈の高い自然の草はら(オギ・ヨシなど)
が多い。林はない。運動公園やゴルフ場
などは3分の1以下。



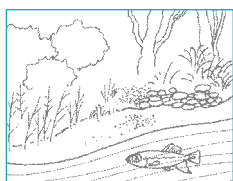
1点 草はらはあるがまばら。
運動公園やゴルフ場などは3分の1以上。



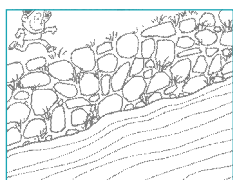
0点 ほとんどが公園やゴルフ場。
または砂利をとったり工事が行われて
いる。

4 水ぎわと川底

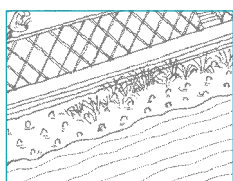
川は、水といっしょに石や砂も運んでいきます。
運ばれるような石や砂はありますか？



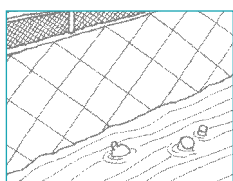
3点 石や砂が自然のまま。流れが強いと石
や砂が運ばれる。または、植物に覆われ
ていたり、自然の岩や土の崖。



2点 水ぎわは人が積んだ石などだが、コン
クリートなどで固められていない。ま
たは石積み・コンクリートが植物で覆わ
れている。
川底は自然に近い。



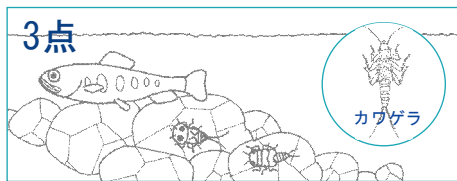
1点 水ぎわはコンクリートで固められてい
るが、川底は固められてはいない。



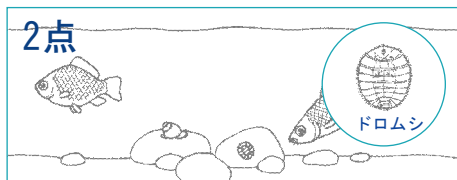
0点 水ぎわも川底もコンクリートで
固められている。

5 水のよごれ

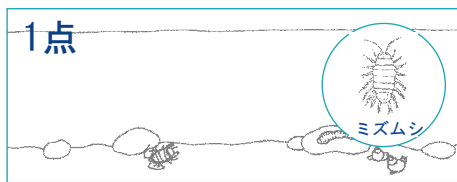
川の中ものぞいてみましょう。
あなたの感覚も大事なスケールです。
水のよごれに敏感な生き物で水のきれいさがわかります。



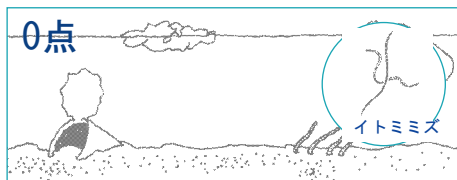
3点
水は澄んでいて飲めそう、
顔をつけられそう。石の
下などに生き物(サワガ
ニ・カワゲラ・カゲロウ
など)がいる。



2点
わりあいきれいな水。
手はつけられそう。ヒラ
タドロムシ・カワニナな
どがいる。



1点
やや濁っている。足はつ
けられそう。生物は少な
い。ミズムシ・モノアラ
ガイなどがある。



0点
濁っていて川底の泥は
黒っぽい。足をつけるの
はいや。イトミミズ・サ
カマキガイなどはいる。

しらべた項目の点数を合計してみましょう

●点数を記入してください。

	地点1	地点2	地点3	地点4
1. 川のまわり	点	点	点	点
2. 土手と川のあいだ	点	点	点	点
3. 流れ	点	点	点	点
4. 水ぎわと川底	点	点	点	点
5. 水のよごれ	点	点	点	点
6. 川でくらす鳥	点	点	点	点

●補正項目

●ダム・堰——水の流れとともに石や砂、魚
など生き物の道としての川の役割を
妨げます。その高さは？

—3点: 人の背丈よりかなり高い。
—1点: 人の背丈か、それより低い。

●わき水——きれいな水で汚れを薄めるだ
けではありません。わき水を好んですむ
動物のすみかになります。

+ 2点: わき水がある

ダム	—	点	—	点	—	点	—	点
わき水	+	点	+	点	+	点	+	点
合計		点		点		点		点

●合計点で、どれくらい自然が残っているかわかります。

15~20点

すばらしい川です。川の利用を考える時も、まずこの
自然を残すことを先決してください。

9~14点

まだ自然が残っています。これ以上自然が失われない
ように注意しましょう。

3~8点

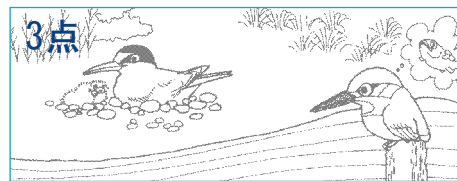
かなり自然が壊されています。自然の回復の方法を考
えていきましょう。

-3~2点

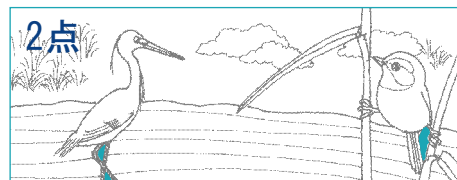
危機的な状況です。少しでも川の自然を取り戻す努力
をしましょう。

6 川でくらす鳥

最後は、水面や川原にいる鳥に注目です。
どんな鳥がここでくらしていますか？
何種類くらい見つかりますか？

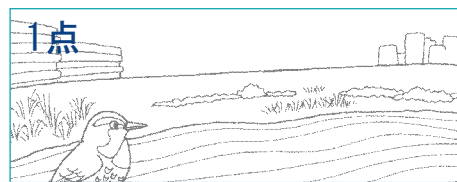


川のどの場所において何
種類もの野鳥が目には
いる。

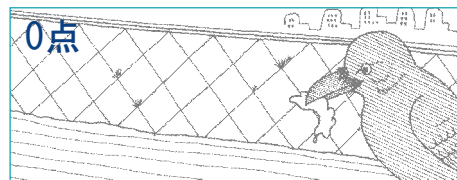


水面や川原を使ってく
らす野鳥がいる。

●白い鳥(サギやカモの仲間
など)●群れている鳥(ツバメ
の集団、カルガモのグループ
など)●よく鳴く鳥(ヒバリ、オ
オヨシキリ、チドリなど)



よく見られるのは、公園
の池で見られる鳥と同
じ(カルガモ、ムクドリ
など)。



カラスやドバトしか
見られない。

写真募集！「川のあるくらし発見」



水辺に降りていける階段、野菜洗いや洗濯がで
きるようになっている水辺、泳げる川、川
を挟んでのお祭り……。自然しらべを
して、「こういう川とのつきあい方
ってすてきだな」という風景を発見し

たら、ぜひ写真もお送りください(撮影日時、場所、撮影者などの情報
もお忘れなく)。お送りいただいた写真や調査結果は、自然しらべの
結果報告(印刷物・ホームページなど)に使わせていただきます。

お預かりした個人情報について

お預かりした個人情報は、「自然しらべ」のためにのみ使い、ご本人の承諾な
しに第三者に提供することはありません。

日本自然保護協会(NACS-J)とは

日本の生物多様性の保全のため、50年以上にわたって活動してきた自然保護
NGOです。活動は、①自然保護についての政策提言、②自然や自然保護制度に
関する調査・研究、③自然かんさつのボランティアリーダー「自然観察指導員」
養成などの環境教育、の3つの柱から成り立っています。この活動を支えてい
るのは、全国約2万人の会費や寄付。あなたも会員(サポーター)になってく
ださい。会費は年5000円です。

自然しらべ
2025
【10年目の川】

●主催: 財団法人日本自然保護協会(NACS-J/ナックスジェイ)
●協賛: (株)サニクリーン
●協力: 大熊 孝(新潟大学教授・河川工学/NACS-J評議員)
●イラスト: トミタイチロー ●デザイン: InterStudio Inc.

日本自然保護協会

〒102-0075 東京都千代田区三番町5-24 山路三番町ビル3F Tel: 03-3265-0525
shirabe@nacsj.or.jp http://www.nacsj.or.jp